

進捗状況の概要 【1ページ以内】

(1) グローバル津梁プログラム

本プログラムは副専攻教育プログラムとして、専門分野を超えて国際共修による協働学習を行う機会を日本人学生と留学生双方へ提供することを目指し、2019年度4月に運用開始された。①共通教育を中心とした学際的全学プログラムとして、共通教育科目8科目、選択科目125科目を提供し、英語運用能力、OECDのキー・コンピテンシーに基づく「グローバル・コンピテンシー」（「新価値創造」、「対立解消」、「責任感」）、及びSDGs運用能力を具体的な学修成果として定めている。2019年度までに23名の学生がグローバル津梁プログラムを履修登録した。②COIL型教育の導入に関して、副専攻プログラム運用後初年度に当たる2019年度は、必修科目の外国語科目や選択科目の「グローバル実践演習I・II」でCOILを用いた協働学習が行われた。これら以外の科目についても、順次COIL科目を拡大していく予定である。③教育の質保証に関しては、同じく2019年度4月から運用を開始したグローバル教育支援機構大学教育支援部門と連携し、甲南大学と共同開発した「グローバル・モジュール」（外国語運用能力と異文化理解力に関する評価指標）を基盤としたアセスメントを行い、プログラムで作成した質保証の共通枠組みを用いて、授業及び海外研修の学修評価に使用している。また本プログラムは、在学期間中に海外渡航を少なくとも1回行うことを必修要件と課しており、これまでプログラムを履修する学生の中から6名が海外に渡航し、うち4名が世界展開力強化事業で支援した海外文化研修に参加した。これらのプログラム既参加学生全員に対して、BEVI (Beliefs, Events, and Values Inventory)による学生の内面変化についてアセスメントを行い、専門教員による分析を実施した。さらに、BEVI連携校の広島大学と協議しながらプログラムの教育効果に関する検証を随時行なっている。

(2) 学生交流プログラム（派遣・受入）

本事業を通して琉球大学は、太平洋島嶼地域の持続的発展に資するグローバルリーダーの育成を目的とする派遣・受入プログラムを提供している。

- ① 「太平洋島嶼地域研究プログラム」（10カ月程度）の留学は、派遣・受入共に学生自らが地域課題に適合した専門分野を現地で探求する長期型プログラムである。長期派遣に関しては、2018年度は1名、2019年度は4名の学生を派遣した。長期受入に関しては、2018年度6名、2019年度5名（1名途中帰国）がプログラムを修了した。
- ② 「太平洋島嶼地域特定課題研修プログラム」（2週間程度）は、特定のテーマについて探求する短期型研修プログラムである。短期派遣は、本学からは2018年度は6名（マーシャル諸島短期大学）、2019年度は23名（ミクロネシア連邦短期大学4名、ハワイ大学マノア校19名）から派遣した。2020年度は、日本人学生6名の派遣を予定しており、オンライン実施と対面実施の両方で検討中である。短期受入に関しては、2019年度はコロナ禍による渡航制限により外国人学生5名の来日を見送り、予定していた対面プログラムをオンラインに切り替えた結果、マーシャル諸島短期大学の学生1名がプログラムを修了した。2020年度もオンラインもしくは対面で実施し、6名を受け入れる予定である。

【養成する人材像】全学的プログラムである副専攻の中で、英語運用能力、グローバル・コンピテンシー、SDGs運用能力の3つのコンピテンシーを備えた人材の育成にあたっている。グローバル・コンピテンシーとは、具体的には「新価値創造」、「対立解消」、「責任感」のことを指す。

【本事業における中間評価までの交流学生数の計画と実績】

（単位：人）

2018年度				2019年度			
派遣		受入		派遣		受入	
計画※	実績	計画※	実績	計画※	実績	計画※	実績
5	7	5	6	10	27	9	7

※海外相手大学を追加している場合は、追加による交流学生数の増加分を含んでいる。

特筆すべき成果（グッドプラクティス）【1ページ以内】○ **全学的にSDGsを取り入れたグローバル人材教育**

本学では、亜熱帯気候や島嶼性を生かしたアジア・太平洋地域における教育研究拠点となることを目指し、SDGsに対応した取組を全学的に進めている。本事業における取組としては、2019年度後期に「総合特別講義 II (COILで学ぶグローバルSDGs)」「総合特別講義I (短期受入プログラム Global Leadership for Island SDGs)」を新規科目として開講・実施した。これらの科目は、世界における様々な課題と実践事例を知り、課題解決に挑む人材の育成を目指す。その達成に向けてSDGsについて「知る」こと、そしてその意義や課題解決に向けたプロセスの再構築を学生たちが共修することを目的としている。これらの教育カリキュラムにおける取組や、産学連携の研究プロジェクト、また住民参加型プロジェクトにおける持続可能な発展に向けた資源利用の実践などが評価され、東洋経済ACADEMICの「SDGsに取り組む大学特集：ポスト2030に向けた知と実践」（2020年7月9日発行）に特色のある大学として本学が取り上げられた。

○ **グローバル津梁プログラム（副専攻）と連動したCOIL科目拡充**

本事業の核となる全学的教育プログラム「グローバル津梁プログラム（副専攻）」を2019年4月に運用開始した。副専攻においては、必修科目である外国語科目に加え、海外連携校から受け入れている留学生と日本人学生、県内高校生が課題解決プロジェクトを実施する「グローバル実践演習群」においてCOILを使用した教育を実施している。さらに2019年度の後期には、専門家からSDGsの基礎を学び、それをを用いて課題解決を考える集中講義「COILで学ぶグローバルSDGs」を開講し、海外連携校やOIST（沖縄県科学技術大学院大学）とのCOIL協働授業を取り入れた。本授業は今後「グローバルSDGs概論（仮）」（1単位）として、副専攻の必修科目となる予定である。

○ **COIL科目における質保証の共通枠組みの運用**

本事業を通して本学が目指す人材育成の主目的は、「COIL型教育手法を活用した太平洋島嶼地域の持続的発展に資するグローバルリーダーの育成」である。グローバル津梁プログラムでは、英語運用能力、グローバル・コンピテンシー（「新価値創造」、「対立解消」、「責任感」）、SDGs運用能力を具体的な学修成果として定めている。また質保証のために、GTEC（ReadingとListening）、BEVI、そしてグローバル・モジュールによるアセスメントをプログラムに導入している。

○ **太平洋島嶼交流拠点としてのCOIL型教育実施**

本事業において、2018、2019年度ともに海外文化研修を実施し、長期・短期を含む学部生計34名を太平洋島嶼地域の連携校に派遣した。派遣中は、本学及び連携校をオンラインで結び、日本人派遣学生、連携校の学生、さらに本学に留学中の外国人学生と共に発表や質疑応答を行い、SDGsに関する協働学習を行なった。学修成果についても、グローバル・モジュールを用いて評価を実施した。

○ **全オンラインによる学生交流プログラム（短期受入）実施**

2020年3月中旬に本学において実施した短期受入プログラムは、コロナ禍により学生の来日が不可能となり、事前研修、本プログラム、事後研修を全てオンラインで実施した。本プログラムでは、SDGsに関する講義やフィールドトリップ、最終課題の学生発表をオンラインで実施した。教育コンテンツに関しては、本学教員5名（名誉教授1名含む）と外部講師1名（JICA）、日本人学生チューター7名による遠隔授業のための協働学習コンテンツを開発し、参加学生に提供した。結果、参加学生1名（マーシャル諸島短期大学）が本プログラムを修了した。また日本人学生チューターも含めた8名全員の学生に事前事後計3回のBEVIアセスメントを実施した。

○ **学生支援体制の強化及び受入・派遣環境の整備**

複数の学内基金運用による学生交流支援体制の拡充、サテライト・オフィスや県人会を通じた派遣学生への支援と派遣プログラムへの協力、クォーター科目活用による受入・派遣環境の整備、及び学内の宿舍改築による受入留学生の住環境改善を行なった。